



坪内逍遙

TSUBOUCHI Shoyo

代表作

～小説～

『小説神髓』（1885～1886 年）

『当世書生気質』（1885～1886 年）

～戯曲～

『桐一葉』（1896 年）

『役の行者』（1917 年）

～翻訳～

『シェークスピア全集』（1928 年）

活動略歴

- | | |
|--------|--|
| 1859 年 | 美濃国加茂郡太田村（現 美濃加茂市）に生まれる。 |
| 1869 年 | 名古屋郊外上笹島村（現中村区）に移住。大惣通い、観劇を始める。 |
| 1872 年 | 名古屋県英語学校に入学。 |
| 1876 年 | 官立愛知英語学校卒業後、県選抜生として開成学校（現・東京大学）に入学。 |
| 1885 年 | 『当世書生気質』、『小説神髓』を公刊。 |
| 1891 年 | 『早稲田文学』を創刊。 |
| 1906 年 | 文芸協会の創設に参画し、『桐一葉』『ベニスの商人』等上演。 |
| 1909 年 | 文芸協会演劇研究所を開設。 |
| 1928 年 | 逍遙を記念する演劇博物館を早稲田大学構内に開館。
『シェークスピア全集』完成。 |
| 1935 年 | 死去。 |

参考／近代日本人の肖像 一 国立国会図書館
飛山濃水の文学 一 岐阜県図書館
みのかも文化の森 美濃加茂市民ミュージアム

TSUBOUCHI Shoyo (1859– 1935)

He single-handedly translated Shakespeare's works. He also aimed to establish literature as an art form, systematizing it as such and writing "Shosetu Sinzui" (The Spirits of the Novel)" which defined human emotion as essential to the novel. This was the first comprehensive assertion of realism in Japan. Furthermore, he dedicated his life to the development of theater, including establishing a theater research institute.

ジャンル / 脚本・戯曲

Play Script

名古屋市収蔵の資料
／坪内逍遙

(一部掲載；収蔵先 文化のみち二葉館)

Collection related to "TSUBOUCHI Shoyo" in Nagoya City.
Storage location: Cultural Path Futaba Museum,
City of Nagoya.

←名古屋市（収蔵先：二葉館）での逍遙に関する寄贈品展示。



←（右から2つめ）二葉館では逍遙を常設展示として紹介しています。



←【参考】

名古屋市中村区名駅三丁目11-10には
「坪内逍遙 少年時代住居跡」の
碑が立っています。上記資料の閲覧を希望される方は、[文化芸術推進課](#)または[文化のみち二葉館](#)までお問い合わせください。
なお、学術研究または教育普及目的の場合にのみ閲覧が可能で、所定の手続きが必要です。